

## 編集後記

---

『長距離ランナーの孤独』（1962年、イギリス）という映画がある。社会の現実には立ち向かう青年の抵抗心を描いているが、映画の内容に深くは立ち入らず、表題だけを学問の世界に似通わせて言えば、「研究者の孤独」ということになるのだろうか。学問研究を志す人は、大学や大学院などで、‘全知全能’のベテラン指導教授（すくなくとも、若い研究者の卵の目にはそう映る）の薫陶を受け、やがては一人前の研究者を目指すことになる。研究者は各々の研究テーマを模索していくが、もはや誰も指導してくれたり教えてくれたりはしない。自分ひとりで何もかもやっていかななくてはならない。

よほど稀有なテーマでないかぎり、先行研究と言うものがあって、先人の業績を辿ったりして、研究者は自分自身のワールドを日日月歩構築していく。そんなときに研究者の頭から常に離れない恐怖心は、「自分が発見し進化させていると思こんでいるこの研究であるが、もしかしたら現在地球のどこかで、知らない国の知らない研究者がすでに自分を上回る成果を挙げてしまっているのではないか」というものであるだろう。だから研究者はネットでキーワードを検索したり、図書館で学術雑誌の新刊号をチェックしたり、関心分野を共有する他の研究者仲間と Workshop（勉強会）を開いたりする。当『貿易風』に掲載されている論文や研究ノートもそうした研究支援的な機能をはたしているにちがいない。

ここで話を大きく転換させてみよう。この『貿易風』は、現在、日本全国の65の大学や研究機関の図書館で紙媒体による学術誌として誰でも読むことができる。ある専門分野の内容にかぎっていえば、ある号が掲載している確率はきわめて小さい。そうだからといって、『貿易風』を店晒しにしてホコリをかぶせておくのは、自画自賛めくが、かなりもったいないのではないか。これほど多岐にわたる内容の雑誌なので、研究者であるないにかかわらず、思わず「へえ～」とつぶやきそうなネタも満載なのだ。たとえば本号の「中米糖業の成長要因」論文からは、砂糖の原料は大きく分けてサトウキビとサトウダイコンの二つに分かれ、世界の砂糖生産のうち、サトウキビは8割、サトウダイコンは2割で、前者が後者を大きく上回る。あるいは、やはり本号の研究ノートの「現代中国語の漢字音とベトナム語の漢字音の関連性」からは、すでに中国語を習得しつつある学習者にとって、もしかしたらベトナム語という新たな言語を自分の外国語レパートリーにすることもできてしまいそうで嬉しい。今回は紙幅が尽きました。今後とも学際的雑誌『貿易風』をどうぞよろしく！

〔編集長 戸田 優男〕

『貿易風』編集委員会

編集長 戸田 優男

編集委員 高 英求 (国際関係学部副学部長)

黄 強

伊藤 裕子

貿易風 — 中部大学国際関係学部論集 —

*Chubu International Review*

第 15 号

2020年 4 月 1 日 発行

編集・発行 中部大学国際関係学部『貿易風』編集委員会  
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200  
TEL: (0568) 51-4079 (直通)  
E-mail: kokusai@office.chubu.ac.jp

印刷 木野瀬印刷株式会社  
〒486-0958 春日井市西本町 3 丁目235番地